



岩手県人会第62回定期総会役員改選 多田マウロ孝則新会長誕生

2021年1月17日 午後1時過ぎから「ブラジル岩手県人会第62回定期総会」が、コロナ感染対策の中12名が会場に参加し、オンラインでも3名が参加。他に会員もオンラインで参加されたに違いない。

司会是多田マウロさんが担当。先人開拓先亡者への黙祷で始まった。

2020年度事業報告では、年初の定期総会・新年会が行われたが諸事業は延期による中止となった。その間、県人会創立60周年記念誌「あゆみ」の発行へ向けての諸作業が行われ発刊へのメドがついたを報告。

引続き会計報告が昆野ワシントン担当理事から報告され、収入R\$94.776,09 支出R\$106.635,48で、収支はマイナスR\$11.859,39でした。

2021年度事業計画では、例年通りのプログラムを組んだが、実行できるかは様子を見ながら実行したい、予算案は大幅な赤字で組むしか無かった。2011年3月の「東日本大震災10周年犠牲者追悼式」を行なうべく東北3県人会で協議中であると伝えた。

予算案は、コロナ終息の見当がつかず必要予算を計上した。

理事会提案で2021年度年会費は据え置きR\$110,00が承認された。

62ª ASSEMBLEIA GERAL ORDINÁRIA DO IWATE KENJINKAI DO BRASIL E ELEIÇÃO DA NOVA DIRETORIA



Em 17 de janeiro de 2021, foi realizada a 62ª A.G.O. da A.C.A. Iwate Kenjinkai do Brasil, de forma presencial e online. Participaram da assembleia

15 pessoas, sendo 12 presencialmente e 3 em modo online. Com a decretação da Fase Amarela em todo o Estado de São Paulo, a assembleia foi realizada com número reduzido de associados. Presidida pelo Sr. Mauro Takanori Tada, a assembleia iniciou-se

com Minuto de Silêncio em memória aos pioneiros da associação e dando continuidade, passou a palavra ao Sr. Presidente Hiroaki Chida que efetuou a leitura do relatório de atividades de 2020, reportando que devido ao início da pandemia no país, foi somente possível a realização da Assembléia e o Shinnenkai. As demais atividades previstas no calendário foram canceladas. Com relação ao livro AYUMI, informou que está em revisão final em preparação para o envio a gráfica.

Na sequência foi efetuado a leitura do relatório financeiro pelo Tesoureiro Sr. Washington Akihito Konno informando que as receitas no período foram R\$ 94.776,09 e as despesas R\$ 106.635,48, portanto com o resultado negativo de R\$ 11.859,39. Novamente com a palavra o Sr. Presidente Hiroaki Chida informou que reduziu a previsão orçamentária para 2021 e a programação de atividades, será idêntica ao ano anterior, com exceção a Cerimônia Memorial de 10 anos do Higashi Nihon Daishinsai, a ser realizada em conjunto com os kenjinkais de Fukushima e Miyagi no dia 11 de Março. O orçamento para 2021, foi estimado em 20 % menor que o ano anterior, visto que os impactos da pandemia persistem. Por decisão da diretoria o valor da anuidade para 2021 foi mantido em R\$ 110,00



役員改選 8 代目会長に多田さん

役員改選は 2 年振りに新会長に多田マウロ孝則氏 (5 6 才) が誕生 (前役員と補充された統一シャッパ) した。

多田さんは、千田会長時代の副会長経験者として「やる気のある人物」で、次期会長として期待されていた。

多田さんは、1985 年県費研修生で電気施設関係を学ぶ。

2006 年 6 月、当会創立 50 周年と日本移民 100 周年への案内に、千田会長夫妻、義父である藤村光夫副会長、高橋凡児副会長、多田マウロ副会長と母県訪問 (当時は増田寛也県知事)、父親 (4 才で渡伯)

と母親 (2 世) の初里帰りにも同行し、日本事情には経験豊富で、日本語は書く事や会話能力は十分にある。

多田会長は就任にあたり、これまで以上に会活動を盛り上げ、一世から 4 世まで若手も誘って、様々な世代が一つになって活動が出来るようにしたいと語った。



役員改選決定で、千田前会長は「1 1 期 2 2 年も会長職が務められたのは、役員はじめ会員皆様の温かい支援に支えられたお陰と謝意を表し、感謝と共に深くこうべをたれた。」

また、前会長で名誉会長である菊地義治さんは、本当に長い間ご苦勞様でした。県人会がコロナ禍でも存続出来た事は千田会長のお陰で、今後後進の育成に励んで欲しいと熱いエールを新聞記者に語った。

(参考 ニッケイ新聞 30/01/2021)



ELEIÇÃO DA NOVA DIRETORIA E TADA SAN COMO OITAVO PRESIDENTE

Depois de 22 anos, a Assembleia Geral Ordinária elegeu novo presidente do kenjinkai. O novo presidente Sr. Mauro Takanori Tada, foi bolsista (Kenshusei) em Iwate em 1985 e fez estágio na área de projetos, instalação e manutenção elétrica.

Por mais de 16 anos foi Vice-Presidente do kenjinkai. Em junho de 2006 foi para Iwate junto com Hiroaki Chida e esposa, Mitsuo Fujimura e Bonji Takahashi para convidar o Governador de Iwate Hiroya Masuda, para Cerimonia de 50 de Fundação do kenjinkai e Cerimonia de 100 anos da retomada da Imigração pós guerra. Em 2013 esteve novamente ao Japão, para levar o seu pai (que imigrou para o Brasil com 4 anos) e sua mãe nissei para realizar o Sato Gaeri e portanto tem bastante conhecimento do Japão como também o domínio da lingua japonesa.

Em seu pronunciamento de despedida, Hiroaki Chida, agradeceu a todos e ressaltou que graças ao apoio dos associados, conseguiu conduzir o kenjinkai por 11 mandatos consecutivos, somando 22 anos na presidência da associação. Em seu primeiro pronunciamento como presidente, Mauro Takanori Tada agradeceu Chida san em nome de todos os associados pela brilhante condução do kenjinkai por todos estes anos e pelo enorme legado que deixa para as futuras gerações. Prometeu dar continuidade ao trabalho com a ajuda dos associados. Esteve presente na assembleia o Presidente de Honra da associação Sr. Yoshiharu Kikuchi que também enalteceu o esforço e a dedicação do Chida san durante estes longos anos.

新 会長のご挨拶

はじめまして、この度ブラジル岩手県人会会長に就任致しました多田マウロ孝則 (ただ マウロ たかのり) と申します。

私の父親は遠野市宮守町出身で家族と共に昭和 15 年、南米ブラジル国サンパウロへ移住しました。

岩手県で海外技術研修員制度ができてから 5 年目、昭和 60 年にブラジル岩手県人会より技術研修生に選出され、盛岡市岩館電機株式会社で 9 か月間研修を受けました。

父親の故郷岩手で日本の優れた技術を学び、日本の美しい風景を経験できたことは社会人として間もない私にとってポジティブな人生スタートとなりました。

このチャンスを与えて頂いた岩手県庁、ブラジル岩手県人会の関係者へ深く感謝しております。

研修帰国後、私は長年にわたりブラジル岩手県人会の青年部や理事会、千田元会長の 3 期目から副会長として 16

年間務めました。

県人会は一世の高齢化、減少と共に二世又は三世の時代に替わってきました。新会長に就任しました事に責任を強く感じますが、二世初の駆け出し会長として、今まで通り母県との関係を継続し、日本や岩手の文化を普及啓発して次世代の為の県人会に頑張りたいと思います。

新型コロナウイルスの影響で全ての行事が延期又は中止となっておりますので今年も厳しいと思いますが、一日も早く会員の皆様方と一緒にわんこそば祭り、会員懇親会誕生会、ジャパン祭り、東北ブロック運動会、餅つき大会を開催できることをお祈りしております。

ブラジル岩手県人の益々のご発展を祈りつつ、今後とも御支援よろしくお願い申し上げます。



MENSAGEM DE BOAS VINDAS

Meu nome é Mauro Takanori Tada e na assembleia geral deste ano fui escolhido como o novo presidente do kenjinkai para substituir Chida-san, após 22 anos.

Inicialmente quero agradecer a ele por todos esses anos de esforço e dedicação a frente do kenjinkai. Otsukaressama Deshista. Meu pai é natural de Iwate e minha família imigrou-se para o Brasil na década de 40. Em 1985 fui bolsista (Kenshusei) e sou muito grato ao kenjinkai e a província de Iwate por me dar esta oportunidade.

Após o meu retorno como bolsista, participei por vários anos das atividades do Seinembu e posteriormente entrei para a Diretoria do Kenjinkai onde trabalhei 16 anos como Vice-Presidente.

Embora acostumado com a rotina do kenjinkai, sinto enorme responsabilidade por ser o primeiro presidente nissei principalmente nas relações com o governo de Iwate a questão do idioma me preocupa um pouco, mas me esforçarei ao máximo.

Outra questão que não posso deixar de citar é a situação financeira do kenjinkai que devido aos efeitos da Pandemia está sofrendo forte impacto na sua arrecadação. 2020 já foi assim e este ano também deverá ser um ano difícil de se administrar.

Espero que com a vacinação em massa, em breve possamos nos reunir novamente para as nossas confraternizações, Wanko Soba Matsuri, Tohoku Block Undokai, Festival de Japão, Moti Tsuki e Bonenkai.

Conto com o apoio de todos para que juntos possamos continuar com o Kenjinkai cada vez mais forte.

Muito obrigado

ブラジル岩手県人会創立60周年・県人移住100周年記念誌 『あゆみ』 発刊への報告（まじか）

『報告』はじめに、県人会記念誌発刊の大詰めにやっと辿り着き、レイアウトがら製本印刷所に入ったところ です。

思えば日本人の後続移民が途絶えて幾拾年が経ち、「新天地に夢と希望を託した」移住者も日本移民113年経た現在では、勿論、旧移民はじめ一世移住者も高令化や鬼籍に入られた方々も多く、先駆者が故郷への思いを託し苦心して築き上げた県人会の歴史を、後継者へ引き継いで頂きたいとの思いで記念誌へと導かれ、県人会の辿った歴史を残したいと発案しました。

だが県人会を支えた諸役員はじめ、会員も減少の一途をたどり、発案当時の役員も私千田を除いて2-3世で、歴史をたどる。或いは資料探しと1から10まで手探り状態でしたが、しっかりした記録を残そうと資料あさり、少しずつ腰を据え原稿書きに浸った。

中でも大変だったのが移住者名簿。1972年12月に発行された「いわて」創刊号から当時の居住地順に移住者名簿をそのまま書き写し、計3回調査された用紙から必要事項を書き添えた事が時間を要した。この項はレイアウト業者も時間を要したようである。

県人会も後世へと引き継がれなければと考えた時、2・3・4・5世代へ、先ずは県人会の辿った移住者祖先の歴史、親睦交流、諸事業、母県や海外県人会と相互の交流事業を大事に引き継いで欲しいと願ったからである。

記念誌表題は『あゆみ』で、ブラジル岩手県人会創立60周年・県人移住100周年誌として発刊されます。



内容は、県人の移住、海外移住略史、発刊の言罵、お祝いの祝詞、式典関連篇、会活動、旧事務所と現会館、主な県関係の訪伯者、会報の変遷、留学研修生レポート、会員の寄稿、神戸移住収容所で児童の感想、駐ブラジル三代日本国公使「杉村濤」、県人会歴代会長、1960年代思いでの「移住者写真集」、県人移住実態調査編、あとがきまで312ページに網羅しました。

県人実態調査編は、日本語・ポルトガル 編と県人会ホームページに、其々掲載される予定です。

[www : iwate.org.bra](http://www.iwate.org.bra)

東日本大震災10周年犠牲者追悼式

3月11日(木曜日)、午前9時(日本時間23時)から、岩手県人会会館で、ブラジル岩手(多田マウロ孝則会長)、宮城(上利エジガール会長)、福島県人会(今井マリーナ会長)主催で「東日本大震災10周年犠牲者追悼式」を、コロナ感染再緊急事態宣言令が再発布された中で、岩手県人会館からオンライン形式で簡素な追悼式が行われた。

追悼式はオンライン生配信の予定だったが、技術的なトラブルが発生し急遽録画方式に変更。数時間後には動画配信となった。



はじめに、大震災で犠牲になられた方々の御霊へ、一分間の黙祷を捧げた。

多田会長が3県を代表して追悼の言葉「東日本大震災から10年、尊い命を失った犠牲者の御霊、謹んで哀悼の意を表しますと述べた。また、県連市川利雄会長の追悼文を代読。10年前、地震と津波により犠牲者となられた方々の式典に挑み、犠牲者の魂に祈るだけでなく、被災地の復興と地域人々の一日でも早い復興を応援したい。と述べた。

次いで、在サンパウロ総領事館桑名良助総領事がオンライン(録画)で参加。大震災10年迎え改めて多くの犠牲者に哀悼の意を表した。また、岩手、宮城、福島の3県人会関係者により追悼式が行われる事に対し、感謝の意を表した。



大震災に対しブラジルの同胞から大きな支援があった事を述べ、大震災の教訓を次世代に伝えなければならないとも述べた。(中略あり)



東北3県知事 感謝のメッセージ

岩手県知事 達増 拓也

誰一人として取り残さない復興

本日、東日本大震災次10年追悼式が、ブラジルサンパウロに於いて開催されます事を、県民を代表して心からお礼申し上げます。

大震災の発災以降、ブラジル岩手県人会皆様からの激励、義援金の提供など多大なるご支援を頂き、お陰様でブラジル全体からのご支援にも広がり、今般、このような式典を開催頂きました事と併せて深く感謝申し上げます。

私は3年前のブラジル県人会創立60周年式典はじめ、これまでに3回訪問しておりますが、この間日本とブラジル両国の絆は一層深まったと時間しております。

大震災から10年を迎え、岩手県では「命を守り、海と大地と共に生きる故郷岩手・三陸の創造」を目標に掲げ、被災

者一人ひとりに寄り添う復興を進め、復興は単に元の姿に戻すではなく、より良い復興ビルド・バック・ベターとなるよう努めてきました。

10年が経った今、街づくりや生活基盤は整備され、津波被害を受けた沿岸部は平地が少なく時間がかかっておりましたが、ようやく全地域で災害公営住宅に全ての方が恒久的住宅に移る見込みです。三陸鉄道(南北リアス線は沿岸部を縦貫する日本最長の第3セクター路線、リアス線として生まれ変わった)。また、県土縦軸・横軸を結ぶ高速道路からなる復興道路は年内の全線開通を目指しております。

被災した医療施設や公立学校、漁港などの復興も完了し、更に「キャッセン大船渡」や「アパッセ高田」など大型商業施設が開業し被災事業所の再開も進み、「未来に向けた伝承・発信」に取り組んでいくことも大切です。

県では2019年9月に陸前高田市に東日本大震災津波伝承館「いわてTUNAMIメモリアル」を開館し、震災の教訓を後世に伝承すると共に復興の姿を国内外の人々に発信する取り組みにも力を入れております。

様々な岩手の魅力を世界に発信。復興は10年で終わりでなく「誰一人として取り残さない」という理念のもと被災者一人ひとりに寄り添いながら、今後も復興を推進して参りますのでご支援ご協力をお願い致します。

結びに、追悼式を推進された関係者に深く感謝申し上げますと共に、新型コロナウイルス感染症の一刻も早い終息と、ご参会皆様の、ご活躍ご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。

(注 中略あり)

市川利雄会長の追悼文

「震災の記憶と教訓を後世へ伝承」



皆様 おはようございます。
10年前に岩手県、宮城県、福島県の沿岸部を襲った津波や地震により多くの方が犠牲となった、東日本大震災10周年追悼式に臨み胸が引き裂かれる思いです。(中略)

2011年3月11日の大地震により、発生した想像を絶する津波はこれらの設備を覆いつくし、沿岸部に大きな被害をもたらしました。

そのため避難する時間もなく多くの方が犠牲になりました。この様子を伝える映像が数多く残されていますが、その時犠牲者の絶望的な気持ちが伝わり、とても見るにたえませんでした。

日本人は忍耐強(にんたいつよ)いですが、この出来事は耐え難いものがあり、日本国内だけではなく、ブラジルや世界各国から哀悼の意が示されました。

しかし東日本大震災による犠牲者に対する追悼式は犠牲者の魂に祈るだけではなく、被災地の復興とその地で暮らす住民の一日でも早い生活再建を応援するものでもあります。

福島県では地震や津波だけではなく、福島第一原子力発電所周辺は放出された放射能によって汚染され、甚大な被害をこうむりました。

私の親戚を含む浪江町の住民は放射能により、住居などを放置し、避難を余儀なくされ、県内各地の仮設住宅に住んでいます。この地域はロシアのチェルノブイリ(ソ連)周辺同様、何世紀にわたり放射性物質による汚染状態が続くことでしょう。

最後に岩手県、宮城県、福島県の皆様に「地域の復興が皆様の生活に希望をもたらし安らぎが与えられる」ようエールを送らせていただきます。

哀悼文 代読 多田 マウロ



皆さん今日は。3月11日は東日本大震災から10年を迎え、この間海外皆様の温かいご支援やご協力を頂き、宮城県民は復旧・復興に向けた着実な歩みを進める事が出来ました。感謝申し上げます。

被災した県内の市町村では、震災の記憶と教訓を後世へ伝承する『場』としての震災以降の整備をはじめ、震災前にも増して魅力ある街づくりを進めております。

コロナ過により世界の往来が厳しい状態ですが、往来が再開された際には、復興した宮城県県の姿をご覧頂くため、世界中の皆さんにお越し頂く事を楽しみにしております。(中略あり)

福島県知事 内堀 雅雄

「世界に誇れる復興を目指して」

本追悼式典開催された海外3県人会と関係者の皆様に敬意と感謝を表します。

「大地震と津波、原発事故」が重なった未曾有の複合災害は、皆様の故郷に暗い影をもたらしたあの日から10年。その間ブラジルをはじめ、国内外からの温かいご支援に福島は、着実に復興への歩みを進めております。

昨年には、帰還困難区域で一部解除されたほか、JR常磐全線が再開し、震災記録と教訓を伝える東日本大震災原子力災害伝承館が開館。明るい光が強まりを見せて参りました。今後皆さん始め、思いを寄せ共感の輪を広めながら「世界に誇れる復興を成し遂げるため」挑戦を続けてまいりますので尚一層のご支援をお願いします。(中略あり)



年会費納入者名 Acertos da anuidade

大森みどり Midori Oomori (2021), 黒沢ふじ Fuji Kurosawa (2020), 山口山田えつこ Etsuko Yamaguti Yamada (2020), 久保和子 Kazuko Kubo (2020) 巖岩 毅 Takeshi Horoiwa (2020), 平野 稔 Minoru Hirano (2020), 大志田良子 Ryoko Ooshida (2020), (2021年1月) 千田曠曉 Hiroaki Chida, 寒河江義弘 Yoshihiro Sagae, 塩野義治 Yoshiharu Shiono, 大崎リリアンみどり Lilian Midori Osaki, 藤村光夫 Mitsuo Fujimura, 山田山口エツ子 Etsuko Yamaguchi Etsuko, 唐沢みつこイザウラ Izaura Mitsuko Karasawa, 久保和子 Kazuko Kubo, 多田マウロ孝則 Mauro Takanori Tada, 多田登 Noboti Tada, 手嶋良子 Ryoko Teshima, 手嶋ジョージおさお Jorge Osamo Teshima, 鈴木秀人 Hideto Suzuki (2020-2021) 鈴木兼人 Kaneto Suzuki (2020-2021), 阿部正司 Masashi Abe, 昆野ワシントン裕仁 Washington, 昆野とし子 Toshiko Konno, 大関多田照子 Teruko Tada Oseki (2020), 平野マリア Maria Hirano, 石川百合子ジュリア Julia Yuriko Ishikawa (2019-2020-2021), 野村ナオミ Naomi Nomura, 川村ネルソン益夫 Nelson Masuo Kawamura, 本岡桂 Katsura Motooka, (2月) 谷口高橋典子ルジア Luzia Noriko T.Taniguchi, 久保和子 Kazuko Kubo,

菊地義治 Yoshiharu Kikuchi, 梅田 菊池 葉子 イワセマ、Iracema Ioko K.Umada, 永松通一 Michikazu Nagamatsu, 本岡桂 Katsura Motooka, 久保和子 Kazuko Kubo, 菊地 義 治 Yoshiharu Kikuchi, 吉田みちこ Michiko Yoshida, 谷口高橋典子ルジア Luzia Taniguchi, 須水リナ春美、Lina Harumi Shimizu, 梅田 菊池葉子イラセマ Iracema ioko Kikuchi Umeda, 亀ヶ沢アメリア Ameria Kamegasawa, 永松通一 Michikazu Nagamatsu, 峰きよこソニア Sonia Kiyoko Mine,

(3月) 吉田みつこ Mitsuko Yoshida, 峰(工藤)紀代子ソフィア Sofia Kiyoko Mine, 福沢哲夫 Tetsuo Fukuzawa,

(4月) 大関多田照子 Teruko Tada Oseki.

『お願い』 銀行振込をされた方で、お名前が分からなかった方がいます。ご自分のお名前を確かめて、もし、名前が無かったらお知らせ下さい。

また、6月から会費お願い書(銀行振込用紙・但し納税番号 CPF 漏れの方が大勢います。是非 CPF 番号をお知らせ頂きたいとお願致します。+ 振込用紙を発送させておきます。

ブラジル岩手県人会ニュース 208号 2021年5月発行

TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br

Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020

ブラジル岩手県人会

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil



おことわり

昨年3月発行「岩手県人会ニュース」204号(印刷版)では、丁度ブラジルでもCOVID19の感染拡大で自粛令が敷かれ、郵便局ではブラジル国内とパラグアイ国へは発送出来ましたが、他の国外へは発送出来ませんでした。勿論、日本国はじめ諸外国でも国外からの郵便物はシャットアウトされた事もあり、日本向けは友達(鈴木さん)が日本へ帰国(7月末)するとの事で、急遽鈴木さんに依頼し、日本国内から各地へ発送して頂き、何とかお届けする事が出来ました。

海外へはメールアドレスで添付となる事をご了承下さい。

コロナ禍で自粛要請が続くかぎり県人会の収入源である、会活動やホールの使用者もなく『岩手県人会ニュース』も印刷費用のかからないコピー版での発行となります。 ご容赦を